

2019年3月期 決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2019年5月15日 東証第一部(4368)



目次



I. 2019年3月期 決算概要

取締役管理本部長 武川 隆彦

- Ⅱ.事業の概況
 - ライフサイエンス事業 常務取締役 ライフサイエンス事業部管掌 谷村 隆史
 - ■電子材料および機能性化学品事業常務取締役 電子材料事業部長 政氏 晴生
- Ⅲ. 2020年3月期 業績予想 代表取締役社長 中野 佳信



I. 2019年3月期決算概要

2019年3月期(累計期間)決算概要



	小小田中心主	前年同期比			計画比		
(単位:億円)	当期実績	前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	420.7	402.2	+18.5	+4.6%	430.0	△9.2	△2.2%
営業利益	92.8	105.3	△12.5	△11.9%	93.5	△0.6	△0.7%
経常利益	98.5	103.6	△5.1	△4.9%	94.5	+4.0	+4.3%
当期純利益	68.8	65.9	+2.8	+4.4%	64.5	+4.3	+6.7%
償却前営業利益	123.2	121.5	+1.7	+1.4%	126.7	△3.4	△2.7%
一株当たり 当期純利益	193.8 円	185.6 円	+8.1 円	+4.4%	181.6 円	+12.1 円	+6.7%

* 6期連続増収・過去最高の売上高を達成

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



		当期実績	前期実績	前年同期比		
(単位:億円)			当郑天顺	削别天棋	増減額	増減率
ライフサイエンス事業		売上高	252.0	243.1	+8.8	+3.6%
		営業利益	35.1	33.8	+1.3	+3.9%
電子材料および機能性化学品事業		売上高	168.6	159.0	+9.6	+6.1%
		営業利益	69.6	82.8	△13.1	△15.9%
(調整額)			△11.9	△11.2	△0.6	_

2019年3月期 四半期別の業績



(単位:億円)		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	3Q (10-12月)	4Q (1-3月)	通期 (4-3月)
売上高	当期	106.8	106.2	110.9	96.7	420.7
72.10	前期	98.1	97.6	107.1	99.2	402.2
ライフサイエンス事業	当期	64.1	64.5	65.7	57.5	252.0
プイプソイエンへ事業	前期	58.0	59.9	64.9	60.3	243.1
電子材料および	当期	42.6	41.6	45.1	39.1	168.6
機能性化学品事業	前期	40.0	37.7	42.2	38.9	159.0
営業利益	当期	26.5	25.9	22.4	17.9	92.8
	前期	28.7	25.4	27.4	23.7	105.3
ライフサイエンス事業	当期	7.5	8.6	9.9	8.9	35.1
プイプリイエン人事未	前期	8.9	7.8	10.3	6.7	33.8
電子材料および機能性化学品事業	当期	21.9	20.3	15.6	11.7	69.6
	前期	22.4	20.8	20.1	19.4	82.8
(調整額)	当期	△2.9	△3.0	△3.1	△2.7	△11.9

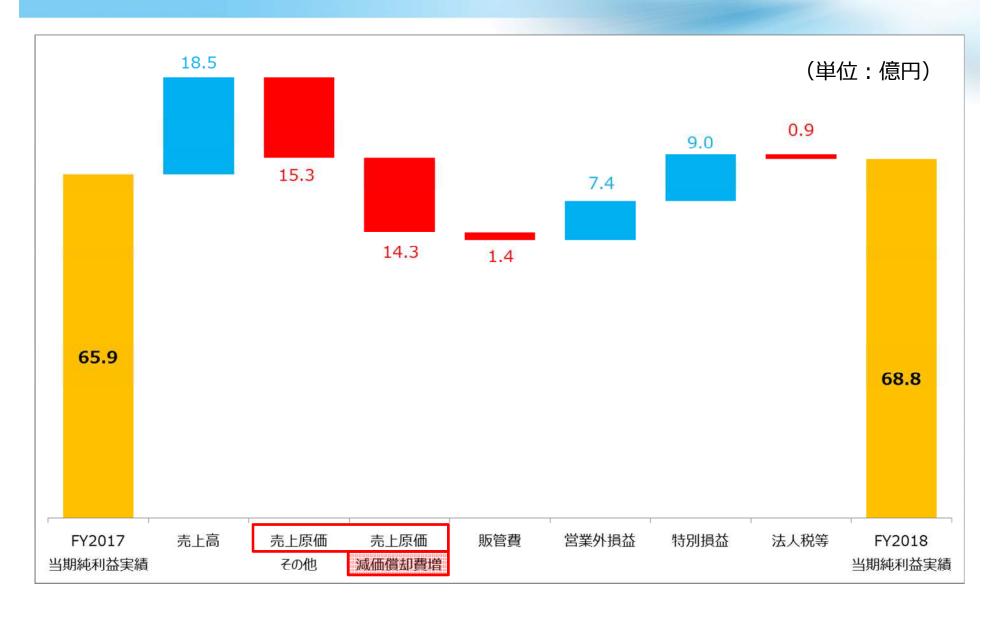
セグメント別売上高・営業利益【過去3年】



(単位:億円)	'17/3期	'18/3期	'19/3期	
売上高	362.2	402.2	420.7	
ライフサイエンス事業	220.5	243.1	252.0	
電子材料および 機能性化学品事業	141.7	159.0	168.6	
営業利益	98.6	105.3	92.8	
ライフサイエンス事業	39.7	33.8	35.1	
電子材料および 機能性化学品事業	69.9	82.8	69.6	
調整額	△11.0	△11.2	△11.9	
売上高営業利益率	27.2%	26.2%	22.1%	
ライフサイエンス事業	18.0%	13.9%	13.9%	
電子材料および 機能性化学品事業	49.3%	52.1%	41.3%	

2018年度-当期純利益增減要因





セグメント別売上高推移





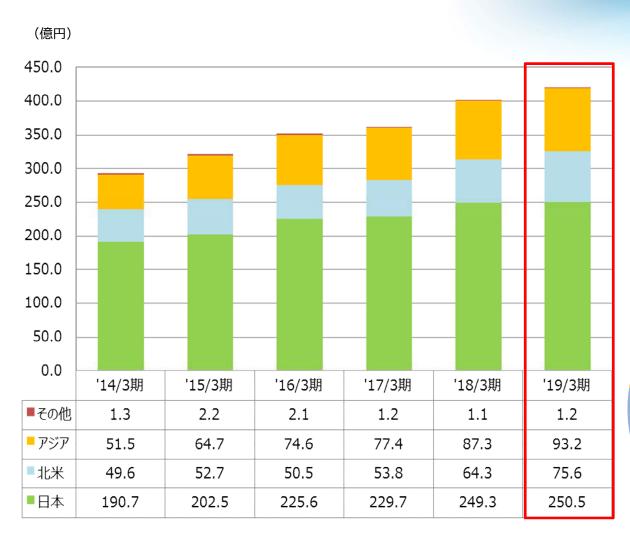
セグメント別営業利益推移

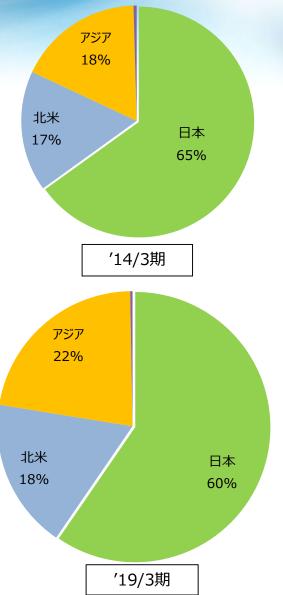




海外売上高推移







資産の状況





流動資産(前期末比 △88.0億円)

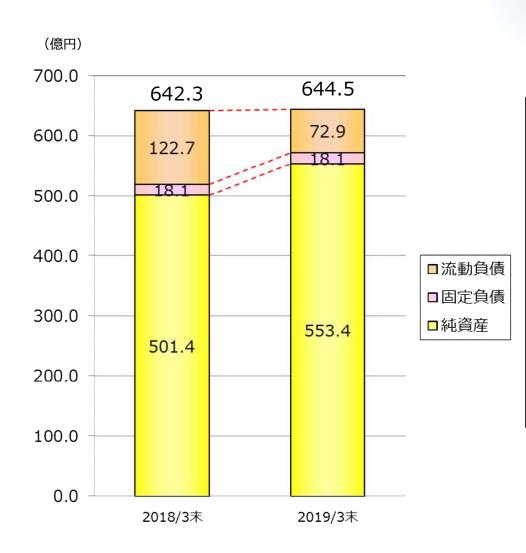
・現預金の減少

固定資産(前期末比 +90.3億円)

- ・建物及び構築物の増加
- ・機械装置及び運搬具の増加
- ・土地の増加
- ・無形固定資産の増加

負債・純資産の状況





流動負債(前期末比 △49.7億円)

- ・未払金の減少
- ・未払法人税の減少
- ・ 役員退職功労引当金の減少

純資産 (前期末比 +51.9億円)

・利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(億円)

	前期 ('18/3)	当期 ('19/3)
営業活動による キャッシュ・フロー	48.4	81.4
投資活動による キャッシュ・フロー	△80.2	△153.5
財務活動による キャッシュ・フロー	△16.7	△16.3
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△2.0	1.4
現金及び現金同等物 の増加額	△50.5	△87.0
現金及び現金同等物 の期首残高	239.8	189.3
現金及び現金同等物 の期末残高	189.3	102.2

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・減価償却費の増加
- ・売上債権の減少
- ・棚卸資産の増加額の減少

投資活動によるキャッシュ・フロー

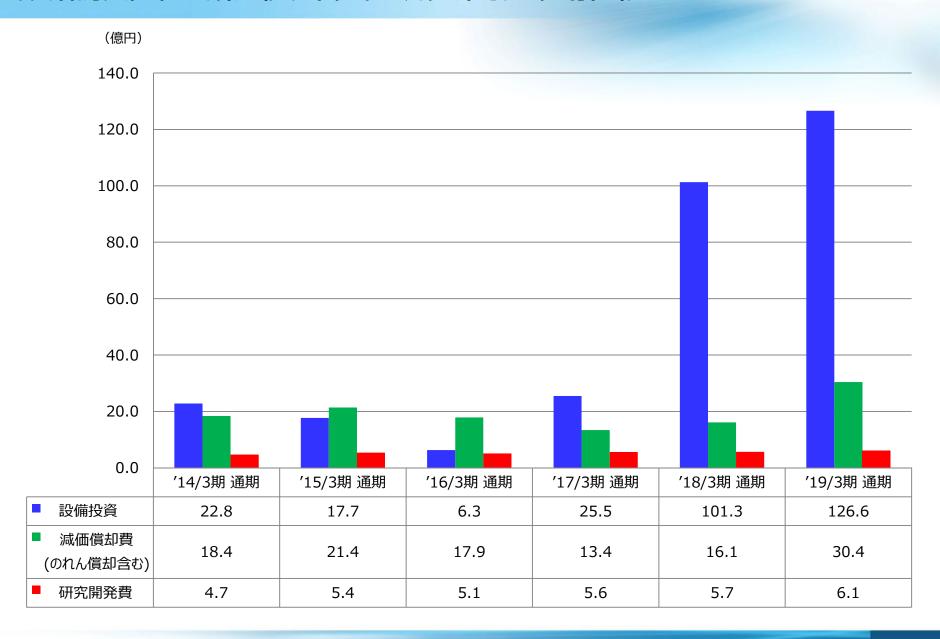
- 有形固定資産の取得
- ・無形固定資産の取得

財務活動によるキャッシュ・フロー

・配当金の支払い

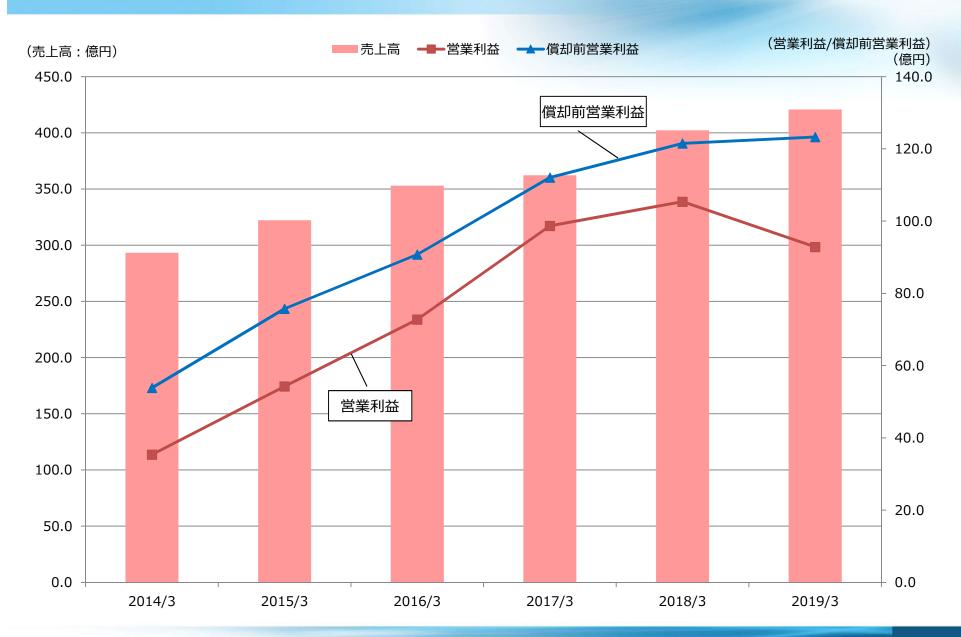
設備投資・減価償却費・研究開発費推移





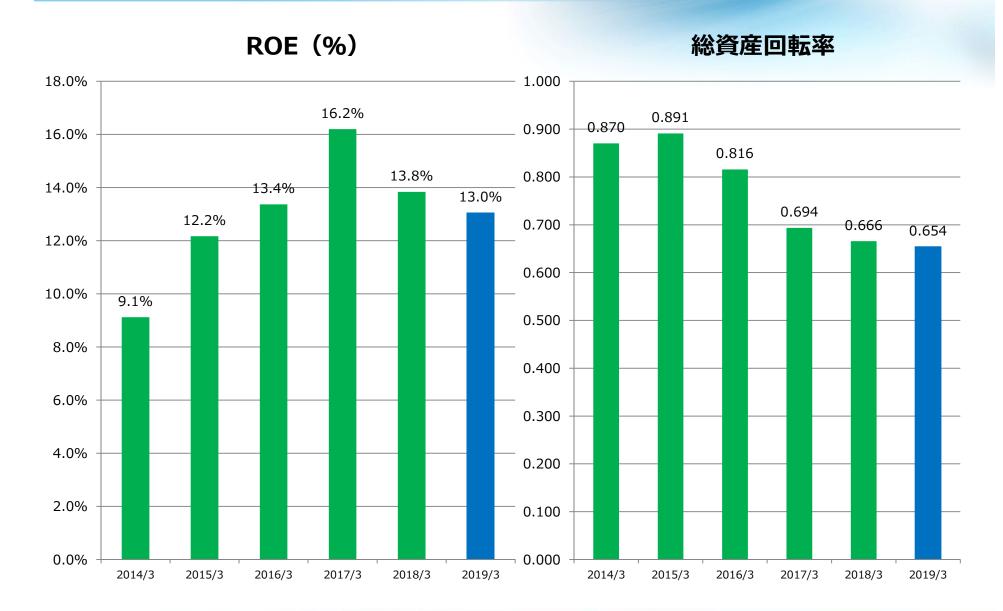
償却前営業利益





経営指標







Ⅱ. 事業の概況



ライフサイエンス事業

事業内容









- ●クエン酸類
- ●グルコン酸類
- ●無水マレイン酸
- ●フマル酸類
- ●乳酸類
- ●イタコン酸
- ●ビタミンC類
- ●食品製剤類
- ●化成品および製剤
- ●その他果実酸



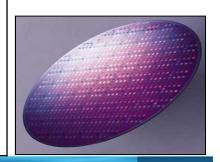






● シリカ関連誘導品・超高純度コロイダルシリカ・高純度シリカナノパウダー

- ・高純度オルガノシリカゾル
- ・アルキルシリケート
- ・アルイルシリクー
- ●高純度果実酸
- ●ファインケミカル
- ●その他機能性化学品



事業内容 〈金メダル製品増強への歩み〉



1962

1986

2003

2014

2019





【鹿島果実酸コンビナート構想】 2019年7月 リンゴ酸プラントの完成予定

無水マレイン酸 フマル酸

■三井化学より、有機酸事業を承継



グルコン酸類

■旧藤沢薬品工業より化成品事業を譲受



クエン酸類

■高度な精製技術を活かしたリンゴ酸に続く主力製品



リンゴ酸類

■国内唯一のメーカーとして確固たる地位を確立



セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位:億円)

	前期	当期	前年同期比		
	('18/3期)	('19/3期)	増減額	増減率	
売上高	243.1	252.0	+8.8	+3.6%	
営業利益	33.8	35.1	+1.3	+3.9%	

売上高



売上高

<増加要因>

- ・グルコン酸ソーダの販売好調
- ・フマル酸の販売好調
- ・クエン酸類の販売好調

<減少要因>

・ビタミンC類の販売苦戦

営業利益

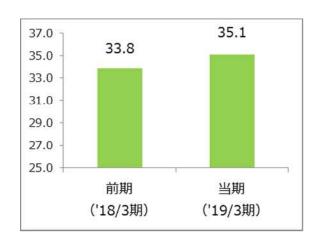
<増加要因>

- ・グルコン酸ソーダの販売好調
- ・クエン酸類の販売好調
- ・無水マレイン酸・フマル酸の価格フォーミュラ改定

<減少要因>

・ビタミンC類の販売苦戦

営業利益



2019年度 重点施策



I. 鹿島果実酸コンビナート構想の実現

Ⅱ. グローバル展開

Ⅲ. 新製品の開発

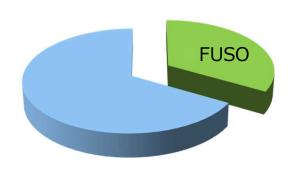
IV. 新たな柱となるビジネスの創出

鹿島果実酸コンビナート構想



I. 拡大するリンゴ酸市場

リンゴ酸市場(アジア)



(当社推定:35,000%)

地域別市場推移



* 2014年の世界市場を1として

世界市場は年率3%~5%以上の成長特にアジア市場は世界市場の成長率を大きく上回る

鹿島果実酸コンビナート構想



Ⅱ. リンゴ酸新プラント建設中

完成予定:2019年7月

生産能力:年間15,000トン

大阪工場の10,000トンと合算すると、25,000トンの

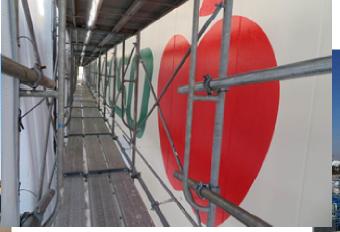
生産能力を誇る世界最大のリンゴ酸メーカーとなる。

課題:大阪工場の有効活用



[2018.9]







[2019.4]

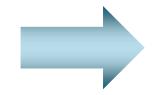
鹿島果実酸コンビナート構想



Ⅲ. フマル酸の販売拡大

フマル酸市場(国内)





(当社推定:20,000%)



2018年3月: (株) 日本触媒

フマル酸事業から撤退

⇒さらに扶桑のシェア増大

⇒フマル酸プラント フル稼働



フマル酸市場は今後も増加傾向



大阪工場リンゴ酸プラントの有効利用

グローバル展開 (海外子会社の課題と施策)





青島扶桑精製加工有限公司

- ◆ 高付加価値製品へのシフト (高純度有機酸の製造)
- ◆ 新規食品添加物製剤の開発
- ◆ 生産設備の自動化促進 (人件費高騰への対応)



FUSO (THAILAND) CO., LTD.

- ◆ 高付加価値有機酸の販売 (日本・中国との連携)
- ◆ 日系及びタイローカルの大手食品 会社への食品添加物製剤の販売
- ◆ タイ周辺国への輸出

グローバル展開 (海外子会社の課題と施策)





北米

PMP Fermentation Products, Inc.

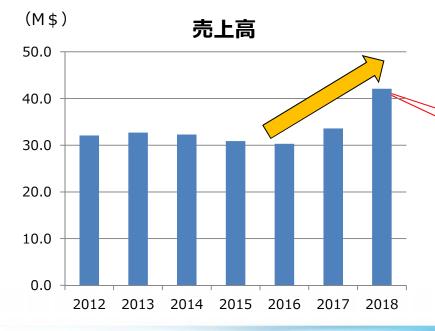
2018年11月:アンチダンピング訴訟に勝訴



中国品のシェア獲得、 加えて好調な米国経済を背景に市場も拡大傾向



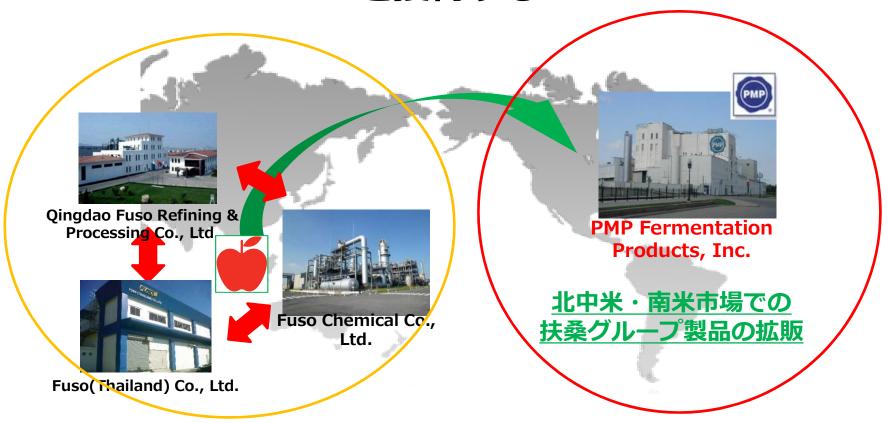
3割アップを目標として製造能力増強中



2019年3月期に、 過去最高の売上高 46.7億円を達成 (営業利益7.5億円)



扶桑グループの連携により、ビジネスチャンス を獲得する



グローバル展開(One-Stop食添製剤メーカーの地位確立)



青島扶桑、扶桑タイランドとの商品開発の連携強化により、現状の倍である 2,000トンの食品添加物製剤の販売を目指す

- ①対象品目の拡大 肉類加工品・水産物加工品+農作物加工品
- ②取扱い品目の拡大 日持向上剤、品質改良剤、歩留改良剤 + マスキング製剤、機能性食品素材
- ③販売地域の拡大 日本、中国、タイ+ベトナム、インドネシア等







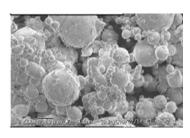


2019年度 重点施策 (Ⅲ·IV)



Ⅲ.新製品の開発

- ①高付加価値品の開発・販売
 - ■製菓・製パン向け油脂コート有機酸の開発



<イメージ写真:油脂コート有機酸>

- ■半導体分野向けの高純度有機酸の開発
- ②抗ストレス製剤の開発・販売
 - ■植物向けの抗ストレス製剤
 - ■畜産・水産分野向けの抗ストレス製剤







2019年度 重点施策 (Ⅲ·IV)



IV. 新たな柱となるビジネスの創出

M&Aの検討

■シナジー効果の期待できる企業との業務提携・資本 提携など、様々な可能性を追求する。



電子材料および 機能性化学品事業

事業内容





ライフサイエンス 事業



- ●クエン酸類
- ●グルコン酸類
- ●無水マレイン酸
- ●フマル酸類
- ●乳酸類
- ●イタコン酸
- ●ビタミンC類
- ●食品製剤類
- ●化成品および製剤
- ●その他果実酸



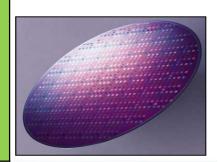




電子材料 および 機能性化学品 事業

●シリカ関連誘導品

- ・超高純度コロイダルシリカ
- ・高純度シリカナノパウダー
- ・高純度オルガノシリカゾル
- ・アルキルシリケート
- ●高純度果実酸
- ●ファインケミカル
- ●その他機能性化学品



セグメント別売上高・営業利益

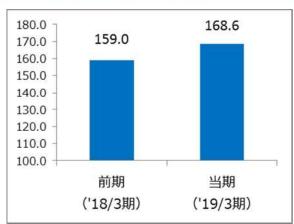


電子材料および機能性化学品事業

(単位:億円)

	前期	当期	前年同期比	
	('18/3期)	('19/3期)	増減額	増減率
売上高	159.0	168.6	+9.6	+6.1%
営業利益	82.8	69.6	△13.1	△15.9%

売上高



売上高

〈増加要因〉

- ・半導体市場好況による販売増
- ・最先端CMP用途での採用増
- ・ナノパウダー販売増
- •円安
- <減少要因>

営業利益

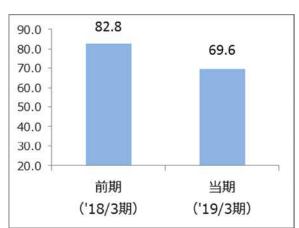
〈増加要因〉

- ・売上増による増加
- ・稼働率向上による原価の低減
- ・主要材料の購買戦略による価格低下

<減少要因>

- ・積極投資による減価償却費増
- •人件費增
- ・積極的研究開発に伴う研究開発費増
- 物流及び外部倉庫費用増

営業利益

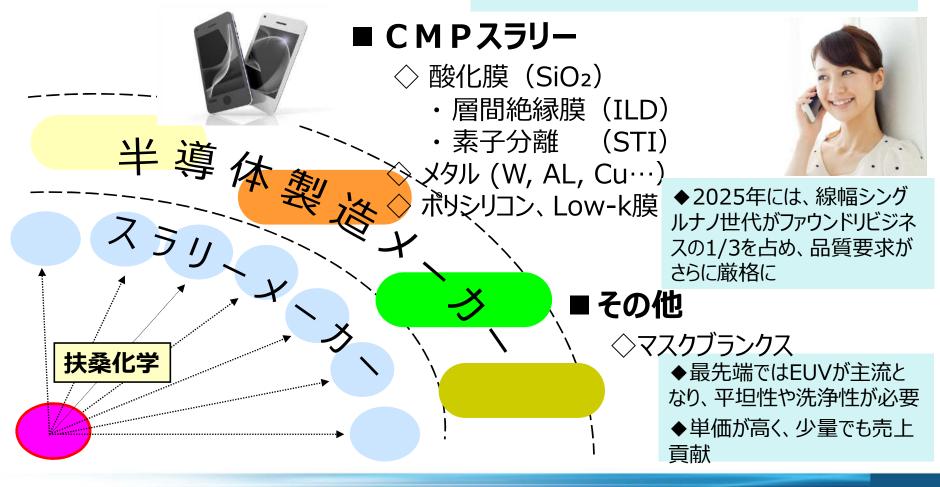


電子材料事業



■ シリコンウエハポリッシング

- ◇ 最終研磨用途向け
- ◇ 一次・二次研磨向けにも展開
- ◆ウエハは半導体デバイス製造には必要不可欠な 素材で、継続的に成長
- ◆ウエハ出荷面積に比例して数量増
- ◆最先端用途には、低欠陥品の開発が必要



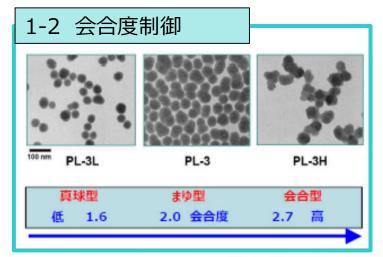
扶桑化学の粒子制御技術

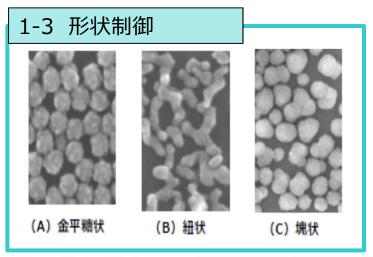


1. 粒子径及び形状制御技術



粒子径の微細化 の動きが早い

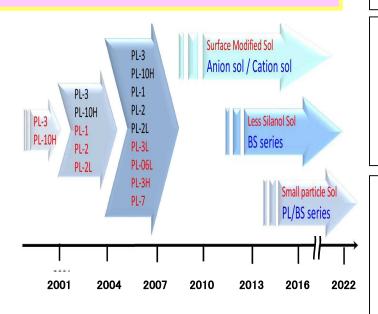


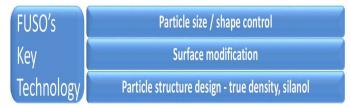


生産技術の高度化



先端コロイダルシリカ の進化





技術:新コンセプト粒子開発

- ★ 新規配線素材に対応
- ★ 高研磨レート、低ディフェクト

生産:最先端設備導入

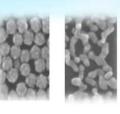
- ★ シングルナノ配線幅に 対応した粒子径制御
- ★ 精密、高効率、低コスト生産

評価:最新鋭の評価機器導入

- ★ 研磨特性、粒度分布、 表面状態の測定
- ★ 顧客評価との相関性、精度向上

資源:研究開発投資

★ ニーズに対応した製品を 継続的に開発

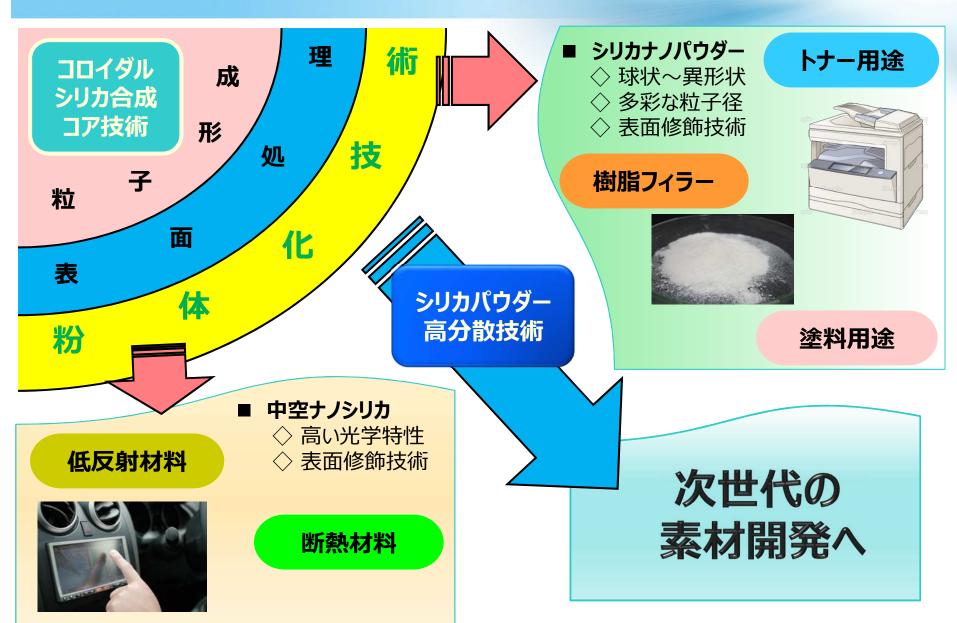






機能材料事業 (新規展開)





扶桑化学の粒子制御技術



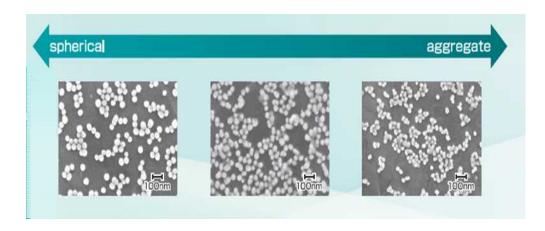
2. 表面改質技術



3. シリカパウダー合成技術



- ・酸性条件化では不安定
- 有機溶媒への分散性が悪い
- 酸性条件化でも安定
- 有機溶媒への分散性向上
- ・疎水性付与により パウダー化が可能に



開発体制の強化



◆ 京都研究所(京都事業所内)

- ・半導体向け研磨材の開発拠点
- ・生産と連携した迅速な開発体制

◆ 東京研究所(神奈川サイエンスパーク内)

- ・ 新規開発の中心的役割を果たす
- ・ 東京研究所の開発の効率化・加速化
- · 拡張·研究員増員



(東京研究所が入居する KSP外観)

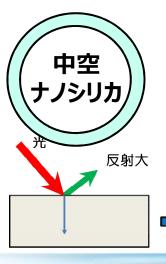
中空ナノシリカ

反射防止

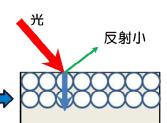
断熱用途

樹脂添加

低誘電材料

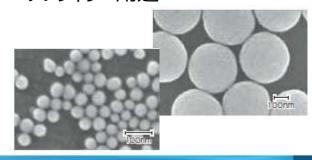


- ・曲げ強度・剛性UP
- ・たわみ防止
- ・絶縁性の向上
- ・温度/湿度安定性



シリカナノパウダー

- ・コア技術によるバリエーション展開
- ・トナー外添剤用途で採用拡大
- ・ナノフィラー用途



重点施策 トピックス



スピード、選択と集中、人材確保

- ・開発体制を更に強化
- ・扶桑独自の生産技術を更に高度化

✅ 「一極」から「多極」への脱皮

研究員の増員と早期戦力化

・東京研究所の強化による、早期の新商品上市

✅ 新規展開"開発品"の早期量産化

- ・ナノパウダ設備の増強
- ・中空ナノシリカの顧客評価加速

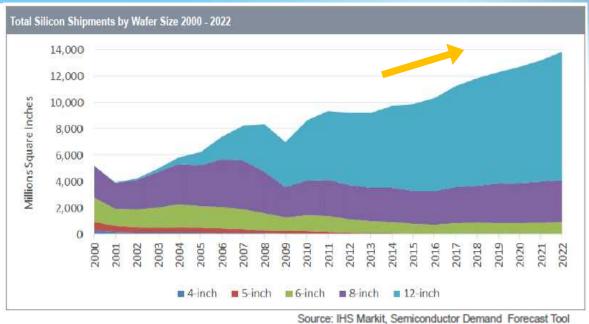
- ・新規増設ラインの顧客認定中
- ・定期修繕期間・作業の見直し
- ・出荷体制強化



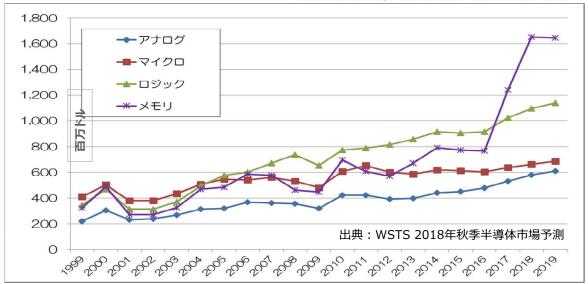


ウエハ出荷面積&半導体市場予測





2018~22年 年平均成長率 3.3% 市場伸長見込み



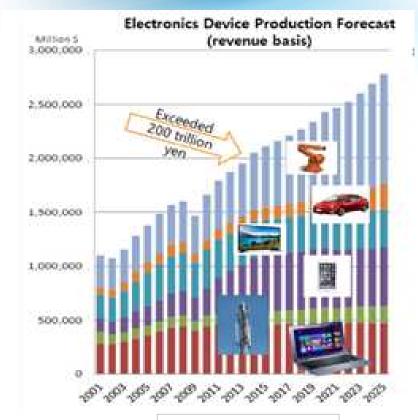
過去数年メモリの出荷額が、特に大きく伸長

2019年度以降減速

半導体業界の動向







Source: IDC dataを基に自社推計

Source: HIS Markit

- スマホ市場は飽和状態で、2019年の出荷見通しは13億9400万台で、3年連続で減少
- 2023年の見通しは、15億4100万台。そのうち26%が5G対応端末
- スマホ以外にも、新たな半導体ユーザーの主役となる自動車と産業機械

当社を取り巻く環境



✅ 直近の半導体市場は、減速傾向

- 中国経済不透明感による世界経済の停滞
- 2019年スマートフォン市場の飽和による出荷台数の3年連続減少

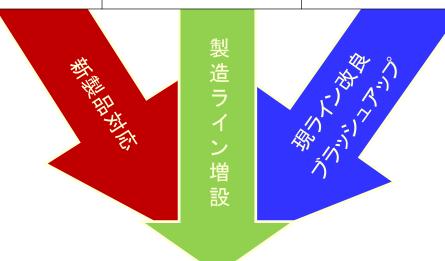
- 「5G」・「AI」・「自動運転」等となり、高性能ロジックを必要とする用途拡大
- 5G対応サーバー需要増加による高性能メモリー需要の増大

- 更なる配線微細化;目標が、nmからAに
- 更なる平坦性均一化; 3D NAND 積層数増加に
- 研磨対象の多様化;新たな研磨対象への対応



く 計画通りに進捗 >

	進捗状況		
製造ライン増設 (1)	2019年 1月完成	顧客認定中/新規製品生産	
製造ライン増設 (2)	2018年11月完成	顧客認定中/新規製品生産	
増産に伴う設備増強	2019年7月完成予定		



- ◆シングルナノ配線への対応
- ◆コスト削減・品質向上
- ◆ より盤石な"世界一のコロイダルシリカ生産工場"の地位確立 ◆

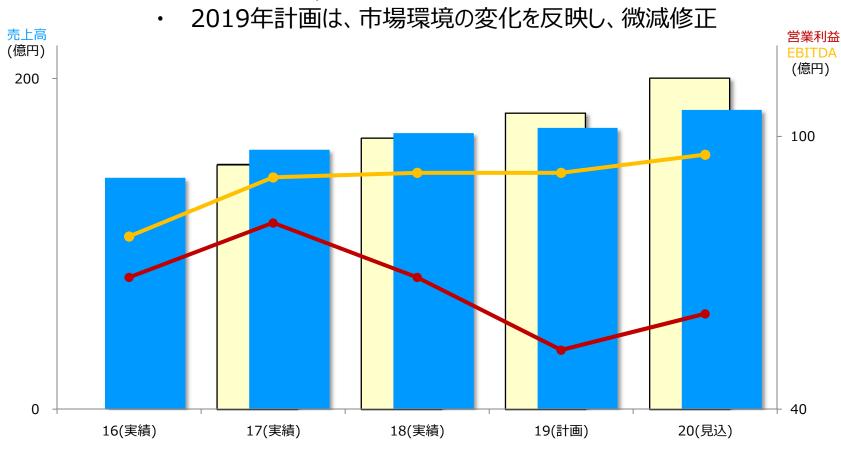
中期目標



◆ 基本方針/目標

一中期計画売上高

- ・ 設備改良、増設に約180億円を投資
- ・ 一時的に営業利益率は低下するが、EBITDA増は維持



──売上高 ◆─営業利益(右軸)

→ EBITDA(右軸)



Ⅲ. 2020年3月期業績予想

設備投資計画進捗状況



- ◆ 競争に勝ち残る最先端工場
- 当初計画より前倒しで立上げ
- Speed, Cost, Quality

セグメント	事業所	設備の内容	投資予定額		着手および完了予定		
277.51	子米///	DZ IMOON JEL	総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着手 (年月)	完了 (年月)	
ライフサイエンス事業	鹿島 事業所	リンゴ酸製造設備新設	5,800	3,175	2017年11月	2019年 7月*	
			超高純度コ ロイダルシリカの 製造ライン増設 および改造	4,641	4,174	2016年10月	2019年 1 月
電子材料および 機能性化学品事業		超高純度 コロイダルシリカの 製造ライン増設	8,050 (内訳) 7,450	6,743	2017年 6月	2018年11月	
			600		2018年 1月	2019年 7月*	

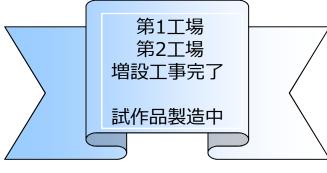
(注) 全額自己資金を充当 (2015.12増資調達済み資金を含む) * 工事中

設備投資進捗



1. 京都事業所







2. 鹿島事業所







償却額見込



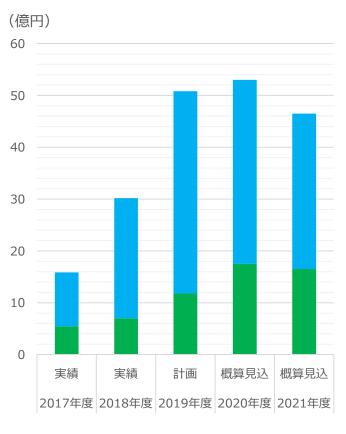
(単位:百万円)

電子材料事業部門

: 2018年度第3Qより増加。2019年度最大に。

ライフサイエンス事業部門

: 2019年度第3Qより増加。2020年度最大に。



セグメント	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度計画	2020年度 概算見込	2021年度 概算見込
ライフサイエンス事業部	545	671	1,180	1,750	1,650
電子材料事業部	1,040	2,352	3,900	3,550	3,000
共通	26	20	20	100	100
連結合計	1,613	3,044	5,100	5,400	4,750

[■]ライフサイエンス事業部 ■電子材料事業部

^{*}工事完了時期、追加費用、計画変更、新規投資等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

業績予想



- ◆2020年以降の事業基盤構築・事業拡大に向けた、設備投資が完了
- ◆償却前利益額(EBITDA)の最高益更新を継続

計画 前提

- ・年間為替レート¥110円想定
- ・半導体市況の下期回復

前年 実績

- ・年間為替レート¥110円
- •果実酸等、価格改定

	売上高		営業利益		当期純利益 賞却前利益		利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020.3 計画	43,000	2.2	7,500	△19.2	5,200	△24.4	12,600	2.2
2019.3 実績	42,074	4.6	9,283	△11.9	6,881	4.4	12,327	1.5
2018.3 実績	40,221	11.0	10,537	6.8	6,592	△4.4	12,150	8.4

(%:対前年度通期増減率)

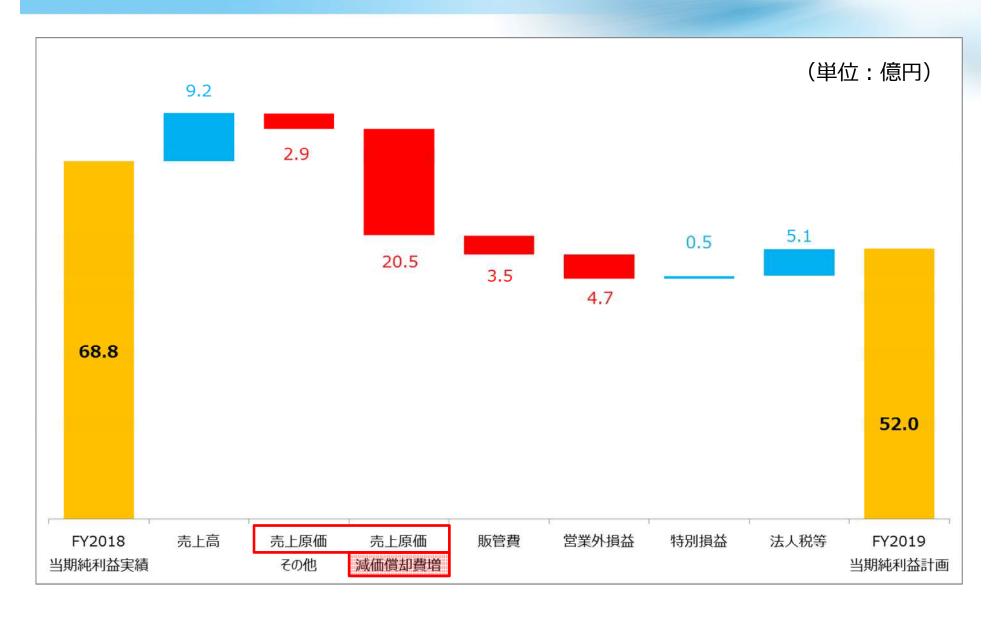
2020年3月期 通期業績予想



	'19/3期 上期 (実績)	'19/3期 通期 (実績)	'20/3期上期 (計画)	'20/3期通期 (計画)
売上高	213.1	420.7	210.0	430.0
ライフサイエンス事業	128.7	252.1	130.0	258.5
電子材料および 機能性化学品事業	84.4	168.7	80.0	171.5
営業利益	52.4	92.8	38.5	75.0
ライフサイエンス事業	16.2	35.1	20.0	35.0
電子材料および 機能性化学品事業	42.2	69.6	25.5	53.0
(調整額)	△6.0	△11.9	△7.0	△13.0
経常利益	56.2	98.5	39.0	76.0
当期純利益	38.8	68.8	26.5	52.0
償却前営業利益	62.8	123.3	60.0	126.0
一株当たり当期純利益	109.3 円	193.8 円	74.6 円	146.4 円

2019年度計画-当期純利益増減要因





セグメント別売上高推移





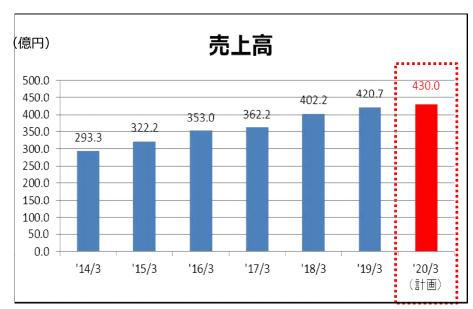
セグメント別営業利益推移





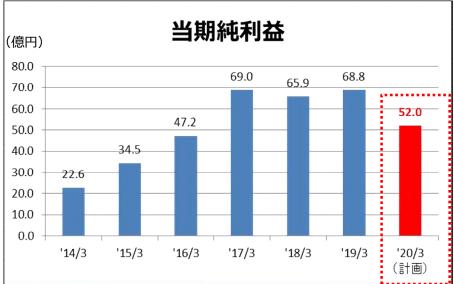
業績推移および計画











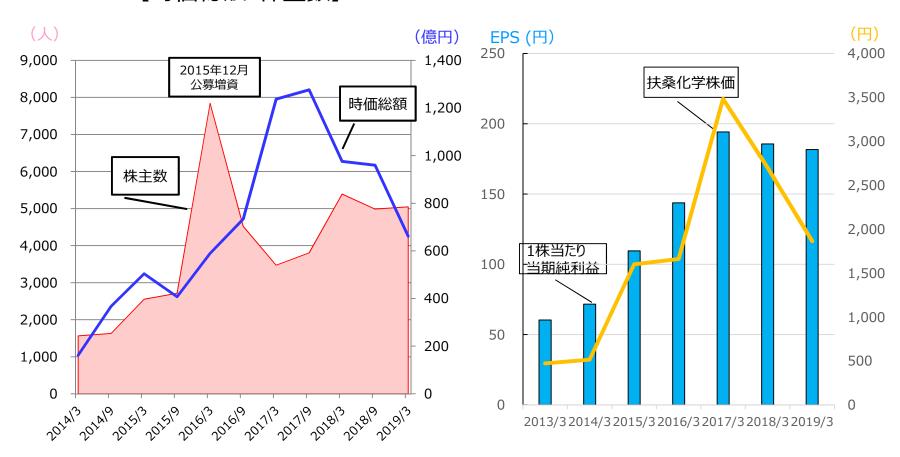
株式情報



I. 株価推移

【時価総額・株主数】

【2013年3月~2019年3月】

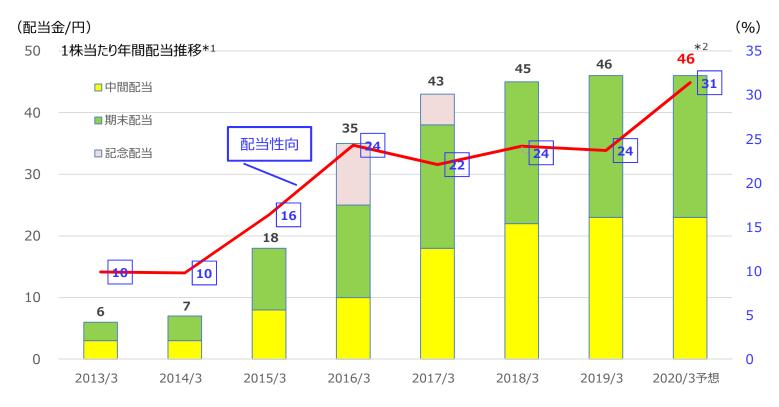


株式情報



Ⅱ. 配当金

- 2019年3月期年間配当:前年度より1円増配
- 2020年3月期年間配当:前年度と同額予定
- 配当性向、配当利回りを考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当実施



*1:2014年10月1日付株主分割(1:5)に伴い、調整

*2:2019年5月9日付決算発表予想





評価名	評価者	評価
事業者クラス分け 評価制度	経済産業省 資源エネル ギー庁	エネルギー使用の5年間平均原単位変化で1%以上の低減があり、特に省エネの取組が進んでいるSランクの優良事業者
女性活躍 リーディング カンパニー	大阪市	「意欲のある女性が活躍し続けられる組織 づくり」「仕事と生活の両立支援」等につい て積極的に推進する企業
JPX 日経中小型指数	東京証券取引所	ROE、営業利益に基づき定量的なスコアリ ングを行った上で定性面を加味し200銘 柄を選出
企 業 価 値 向 上 表彰	東京証券 取引所	自社の資本コストを認識し、企業価値向 上経営を実践して業績を残していることが 評価され、選定された、表彰候補50社



扶桑化学工業株式会社

省エネ優良事業者(Sクラス)・ KES環境マネジメント

大阪市女性活躍リーディングカンパニー行動規範ハンドブック刷新(全面改訂)







本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。